

プログラムの目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えを持ち、試行錯誤する 2. 正解のない問いに対して、自分なりの答えを見つける 3. 主体的に学びを深めることを楽しむ
----------	--

活動テーマ	～サイエンス 天気～
-------	------------

活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 くもとあめについて知ろう 2 あめとゆきはどこからくるの？ 3 にじの色は何色？ 4 太陽の光で遊ぼう
------	--

活動の様子

天気をテーマに活動を行いました。朝の会で今日の天気は何かを読み合わせているほどなので、天気のことを行うと言うと、とても興味をもって取り組んでおり、どの活動でも子どもたちからの意見がたくさん出ました。「なんで？」という疑問から「すごい」という発見まで様々で、天気に対する理解を深めることができました。



雲はどのようにしてできるのか、水蒸気とはなにか話を聞いています



触ってみたい！と興味津々な様子の子もたち
コップの中に入っている液体の色と外側についている水滴の色が違うことに驚いていました。



けむりが出てる！



黄色く見える！と大喜びの子もたち



虹ってどんな色があったかな...



にじはっけん！！！！



室内でも影は見えるのかみていきました

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	6 月 4 日 (水)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ	
サイエンス ~光~ 光と影の探検ごっこ	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
前週の影あそびが広がり、園内外でできる影を発見し、影のできる様々な遊びを楽しんでいる。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00~10:10	<p>・「影あそびはどんな遊びだったかな?」「影はどんな形をしていたかな?」「太陽が雲に隠れた時には影はどうなったかな?」等、前回の活動を振り返る。</p> <p>・実際に行った経験から「影ができるためには何が必要なのかな?」「影ができるのは外だけかな?」と問いかける。</p> <p>・光について子どもが気がついた時に、太陽とライトから光が直進する図解を出し、光と影の関係性について「どんな時に光や影があるかな?」「光が出るもの、影ができるものって何かな?」等と問いかける。</p> <p>・「電気を消したら光は無くなるのかな?」「暗くなったら影はどうなるのかな?」「どうしてそう思ったのかな?」と保育室を暗くしたら影はどうなるか調べてみよう」と提案する。</p> <p>・「影は見えるかな?」等と問いかけ、光がないと影はどうなるかを一緒に確認していく。</p>
10:10~10:30	<p>・電気をつけ、「暗くなったら影はどうなったかな?」「何色に見えたかな?」と気づいた事を話せる場を設け「どうして影が見えなくなったのかな?」と問いを投げかける。</p> <p>・懐中電灯の使い方を伝え、「どうやったらみんなで使えるかな?」「違うグループも一緒に探検するから、どんな事に気がつけたらいいかな?」等グループで使うためにはどうしたらよいかを話し合っ規則を決める。</p> <p>再び保育室を暗くして、懐中電灯を使って照らしながら探検をしてみる。「さっき影が無くなった場所に光を当てるとどうなったかな?」「影はどうなっているのかな?」「光はどうなっているかな?」と問いかけ、光と影の様子を観察できるようにする。</p> <p>・「光はどう進んでいるかな?」「この光はどこから来たのかな」と問いかけ、反射に気がつけるような声掛けもしてみ</p>
	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な箇所がないか確認しておく。 ・暗い環境が苦手な子がいないか等を把握しておく。 ・暗転した保育室で災害が発生した場合でも、瞬時に対応ができるよう、避難経路の確保と備品の確認をしておく。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯 ・影や反射ができる物品 ・ホワイトボード、マーカー <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・太陽とライトから光が直進する図解 ・光の反射の図解 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動に使用する用具（懐中電灯、鏡など）使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・わかりやすいイラストや写真を選定する。

10:30~10:40	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、探検での発見や感想を発表する。内容に合わせて「どのように光や影が見えましたか?」「光や影の大きさはどうでしたか?」「光が跳ね返ったのはどんな物がありましたか?」と問いを投げかけてみる。 ・光の反射の図解を見せ、光が何かに当たって跳ね返ることを「反射」というと説明する。 ・「鏡の他にも反射したものはあるかな?」「どんな物が反射するのかな?」「ツルツルとザラザラだと変わるのかな?」等反射する物・しない物はどんなものがあるのかを予想をする。 ・次回、調べてみよう(実験してみよう)と提案し、探究の継続と次回への意欲がわくような声掛けをする。 	
-------------	---	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動の広がりから、普段感じている光と影について、改めて探究的な視点で見ることのきっかけを作る。 ・光と影の性質に体験を通して気づき、試行錯誤する中で「不思議だな」「なぜそうなるのかな」という疑問をもつことで、探究することの面白さを感じられるようにする。 ・これから深めていく光と影の関係性や、反射や屈折などの光の性質についてを探検を通して気づいていく。 	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「明るくないと影ができないんだね」、「光の当て方で影が変わるね」、「鏡に当てると光が後ろにできるのは何で?」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正解を教えるより先ずは一緒に考える事を大切に。子どもたちが考える機会を増やした。子どもの驚きや発見を丁寧に拾って展開させ、探究の幅を広げる手助けをした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・光や反射は何なのかというところから、言葉を覚え、実験結果を予想しながら楽しんでいった。 ・生活の中での光の不思議に気づき、新たな疑問が生まれていた。 ・具体的な体験を通じて考えることで、探究する姿勢が育まれていることを実感した。 	

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 ほし 組	6 月 11 日 (水)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ	
サイエンス ~光~ 光であそぼう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
子どもたちは日常の中で光に関する不思議な現象を目にし、前回の活動から「光がピカッと動いた！おもしろい！（光の反射）」といった疑問をもつことがある。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00~10:05	<p>・「光の反射って、何だったかな？」「お部屋の中でどんなものに反射したのかな？」「鏡の他にも反射したものはあるかな？」等、1プログラム目での探検で気づいた光の反射について、その時出た予測を振り返る。</p> <p>・「他にもどんなことが起きるかな？」等、その後、見つけたり、考えた新しい予測を共有しあったりしてホワイトボード等に記録する。</p> <p>・保育室を暗くして試してみようと提案する。</p>
10:05~10:15	<p>・「前回作ったルールはどうだったかな？」懐中電灯の使い方を再度確認する。</p> <p>・反射する物しない物を実際にも実験してみる。「光の当て方を変えると反射は変わるかな？」等、探究が広がるような声掛けをする。</p> <p>・「どんな物だとできたかな、できなかったかな？」「光の当て方を変えると光はどうなるのかな？」「よく反射した物は何があったかな？」「反射した光を反射したら光はどう進むのかな？」等、反射する物しない物の特性について振り返る。</p>
10:15~10:30	<p>■ 参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 光の反射の図解 <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予め実験を行い、うまくいかか試しておく。 ・ 光あそびのために、ビニールテープなどで印をつけておく。 <ul style="list-style-type: none"> ①ゴール地点2,3か所 ②立ち位置グループの人数分 ・ 探究活動に使用する用具（懐中電灯、鏡など）使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・ 反射のするものが室内にあるのかを確認しておく。

10:30~10:40	<p>う。光の屈折がより気づきやすいように援助する。</p> <p>・「10円玉はどう変わったのかな?」「どうして消えるのかな?」「水の量で見え方は変わるかな?」「初めから水が入っているコップを置いて同じ結果になるのかな?」等、なぜ消えたように見えるのか、角度によって消えたり見えたりするのか考えるきっかけを作り、話し合っていく。</p> <p>・今回のマジックの結果を振り返り、「どうして10円は消えたのかな?」等、疑問を問いかけ、考えるきっかけを作っていく。</p> <p>・実験の感想や、どうして10円が消えて見えるのか予想を発表する。</p> <p>・光が水を通るときに曲がってしまうことを光の「屈折」というと説明し、お風呂で腕の角度が曲がって見える等、身近に起きている具体事例をあげ、他にどんなものがあるのかを予想し発表する。</p> <p>・次回は水の中の光の進み方を見る実験を試みようとして提案する。</p>
-------------	---

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・子どもたちは、光の進み方や反射を体感するために、鏡を使ったリレーあそびを行った。</p> <p>・光の特徴や鏡の角度で変化があることに気づき、いろいろと試していた。</p> <p>・10円玉の実験では、水を入れると見え方が変わることを発見し、「消えた!」と盛り上がっていた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「鏡を動かしたら光が違う方向に行った!」、「10円玉が消えた! 不思議!」、「水に入れると、曲がって見えるのはなぜ?」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。</p> <p>・「光がまっすぐ進む!」と気づいたり、「鏡の角度で光の進み方が変わる!」と驚いたりする姿が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・「どうして光はまっすぐ進むの?」「鏡や水に光を当てると、どうなると思う?」と問いかけ、子どもたちが考える機会を増やした。また、実験の結果を見て、「どうしたら違う見え方になるかな?」と促し、探究の幅を広げていった。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、光の進み方や反射の仕組みに強い関心もち、予想しながら実験を楽しんでいた。</p> <p>・生活の中での光のふしぎに気づき、違う場所ではどうなるのか探求したいという声が出てきた。</p> <p>・具体的な体験を通じて考えることで、探究する姿勢が育まれていることを実感した。</p>	

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	6 月 18 日 (水)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ	
サイエンス ~光~ 光のマジックをしよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
子どもたちは日常の中で光に関する不思議な現象を目にし、前回の活動を通して「なんで水に入れると短くなるんだろう？(光の屈折)」といった疑問をもつことがある。	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:00~10:05	<p>・ 光のゲームを振り返り「どんなゲームをしたか覚えている？」「鏡に光を当てるとどうなったかな？」「光が跳ね返ることを、何と呼んでいたかな？」等、光の反射について振り返る。</p> <p>・ 光のマジックを見ながら振り返り、「10円が何で消えたか覚えてる？」「光が曲がることを、何と呼んでいたかな？」等、光の屈折について振り返る。</p> <p>・ 今日新しい光の性質「屈折」について実験することを伝える。</p>
10:05~10:30	<p>・ 3つのコップに異なる液体(A=赤:コップいっぱいの水、B=青:半分の水、C=黄:油)を入れ、それぞれに10円玉を沈めることを説明する。【実験1】</p> <p>・ 「どう見えると思う？」「なんでそう思ったのかな？」等、10円玉を入れたときの様子を予測できる時間を設け、子どもたちが考え、自分の意見を伝えようとするきっかけを作る。</p> <p>・ A、B、Cのコップに10円玉を入れ、「どのコップの中の10円玉が一番大きく見える？」と問いかけ、子どもたちの気づきを聞く。</p> <p>・ 各グループでもやってみることを説明する。</p> <p>・ さらにストローもコップに入れ、見え方が変わるか観察する。【実験2】</p> <p>・ ビニール袋に絵を描き、水に沈めると見え方が変わることを確認する。【実験3】</p> <p>・ 「どう見えた？」「何が消えたかな？」「袋に絵をかいたらどうなるのかな？」「見る場所によって違って見える？」「どうしてかな？」等、声を掛け、観察や気づきの広がりを援助し子どものつばやきを記録する。</p>
10:30~10:40	<p>・ 水槽を用意し、光の屈折について光に色をつけて見せ、光の道を見て振り返る。様々な実験をしたので記憶が混ざらないように「光はどうやって進んでいるかな？」「どこで光</p>
<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の記録に、今回の取り組みの追記ができるように準備しておく。 ・ 水を使うため、こぼしても安全なスペースを確保し、子どもたちがじっくり観察できるように透明なコップを用意する。 ・ 懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な箇所がないか確認しておく。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 懐中電灯 ・ ホワイトボード、マーカー ・ 透明のコップ(プラスチックまたはガラス)3つ×グループ数 ・ 10円玉などの硬貨3つ×グループ数 ・ ストロー3本×グループ数 ・ 水 ・ サラダ油 ・ 鏡 ・ カラーの油性ペン ・ 黒の油性ペン ・ 完全に密閉できるビニール袋 ・ 紙(ビニール袋のサイズに合わせる) ・ 水槽(洗面器)など <p>■参考資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屈折の図解(空气中→水中) <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探究活動に使用する用具(懐中電灯・水槽など)使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・ 予め実験を行い、うまくいくか試しておく。 <p>【実験1】</p> <p>3つのコップが区別できるように、シールを貼る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コップA:赤 ・ コップB:青 ・ コップC:黄 <p>【実験2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストローを入れて、短く見える実験を 	

	<p>「折れているのかな？」「水の中で光は曲がるのかな？」「水に入った光はどうやって出るのかな？」等と声を掛け、整理していく。</p> <p>・通った光の色がついたことに気がつき、「なんで色がついたのかな？」「光のかな、影のかな？違うものなのかな？」「光や影に色がつくのかな？」「例えばどんなものが色がつくのかな？」等、なぜなのかを予測してみる。</p> <p>・次回は光と影に色がつけられるか実験を試みようとして提案する。</p>	<p>かじきるよりに、袋のストローを用意する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストローにもシールを貼っておく。 <p>【実験3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予めカラーペンで見本の絵を描き、ビニール袋の上から、残したい部分の輪郭のみ黒の油性ペンでなぞる。
--	--	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・コップに入れた10円玉やストローの見え方が変わることに驚きながら観察を進めた。</p> <p>・実験では、どうなるのかと興味を持ち、じっくり観察し、油と水で見え方が異なることにも気づいた。</p> <p>・ビニール袋の実験では、「絵が消えた！」と驚きの声が上がリ、屈折による光の変化を実感することができた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・「ストローが折れて見える！なんで？」「水と油の中で、大きさが違って見えるよ！」「ビニール袋の絵がなくなったみたい！」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・「どこをよく見ると違いが分かるかな？」「光はどう進んでいるのかな？」と問いかけながら、子どもたちの気づきを促した。また、予想と結果が違った場合にも「どうしてだろう？」と考える時間を大切に、探究する姿勢を育むようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・子どもたちは、日常生活の中にある光の屈折に興味を持ち、実験を通じて考えを深めていた。</p> <p>・予想と違う結果が出ることに驚きながらも、理由を考えようとする姿勢が見られた。</p> <p>・室内と室外では何が変わるのか実験したいという声が子どもたちから出てきた。</p>	

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	6 月 25 日 (水)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ	
サイエンス ~光~ 光や影に色をつけよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
日常生活の中で影の変化に気づき、「影ってどうしてできるの?」「影はどこまでついてくるの?」といった疑問をもつことがある。また、光が当たると物がキラキラ輝いたり、色が変わったりすることにも気づくことがある。「ガラスがきれい!」「光を通すと色が変わる!」といった発言があり、光の性質や色の混ざり方に興味をもっている。	
活動スケジュール	環境設定・準備物
時間	内容
10:00~10:05	<p>・「前回どんなマジックをしたか覚えているかな?」「どんな時に光が曲がるんだったかな?」「光の屈折とは何だったかな?」等、前回の水槽で光の屈折を確認した内容を振り返る。</p> <p>・「光を当てると出てくるものは、なんでしょう?」「影は何色だったかな?」等、光を当てた時にできるものは何かクイズを出し、影について覚えていることを発表する。</p> <p>・前月の影あそびや①プログラムで行った探検ごっこでやってみた光と影についても振り返る。</p> <p>「光の当て方で大きさや長さはどうだったかな?」「暗くなったら影はどうなったかな?」など問いかけをし活動の振り返りを促す。</p> <p>・部屋を少し暗くし、グループに分かれて影あそびをする。</p>
10:05~10:25	<p>・それぞれ観察した気づきを発表する。「色々な形、長さ、大きさのかけができるね。」「色はどうだろう?」「いろいろな色の影はできるかな?」「どうやったらできそうかな?」「意見を出してみよう。」等、質問をしながらホワイトボードに記録する。</p> <p>・懐中電灯にそれぞれセロファンを貼りながら、光の色は何色になるか予想し発表する。</p> <p>・赤・青・緑のセロファンを貼った懐中電灯で二色、三色の光を組み合わせた場合の影の変化を予想し、観察した結果を共有する。</p> <p>・「色を混ぜるとどうなる?」「影はどうなった?」と問いかけながら考えを深める。</p> <p>・スタンドグラスについて紹介し、知っていることや見て気づいたこと、今までの実験を通して考えたことなどを発表していく。</p>
	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・影の変化を観察しやすいように、部屋を暗くできる環境を整える。 ・暗転した保育室で災害が発生した場合でも、瞬時に対応ができるよう、避難経路の確保と備品の確認をしておく。 ・懐中電灯とセロファンを十分に用意し、子どもたちが実験しやすいスペースを確保する。 ・室内で実験が安全に行えるスペースを確保する。 ・実験に必要な道具を使いやすい場所に準備し、子どもたちが観察しやすい環境を整える。 ・前回の記録に、今回の取り組みの追記ができるように準備しておく。 ・前回使ったセロファンを貼った懐中電灯(3色)を残しておく。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懐中電灯3本 ・セロハンテープ ・赤、緑、青の3色のカラーセロファン ※セロハンテープと各色のマジックペンで代用も可能 ・高さ15cm程度の物体(ぬいぐるみなど) ・光の三原色の図 ・ホワイトボード、ペン ・カラーセロファン ・黒い色画用紙(約20cm四方) ・懐中電灯 ・はさみ ・のり ・スタンドグラスの写真 ・ホワイトボード、ペン <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・予め実験を行い、うまくいか試しておく。 ・懐中電灯について、明るさの確認と、子どもの手に持った際に危険な箇所がないか確認しておく。

<p>10:40~10:50</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ステンドグラスの写真を見せ、「どうしてきれいに見えるのかな？」と問いかける。どのような材料や仕組みでできているのか、予想をホワイトボードに書き出す。 ・黒い画用紙を使って枠を作り、好きな色のセロファンを貼りつける。 ・「どんな形や色にしたらきれいに見えるかな？」と考えながら製作を進める。 ・完成したステンドグラスに日光や懐中電灯を当て、どのように光を通すか観察する。 ・明るい場所と暗い場所で光を当て、見え方の違いを比較する。 ・一番きれいだった色の組み合わせや工夫したこと、上手にできたことなど意見を発表する。「一番好きなところは？」「発見(気づいたこと)はあった？」「友達の作品で素敵なおところはどこかな？」等と質問することで伝える楽しさを感じられるようにする。 ・光と影について振り返る。 ・作品を見ることができるよう「どこに展示するといいかな？」「光や影を感じやすい場所はどこだろう？」等と問いかけながら展示場所や方法をみんなで考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動に使用する用具（懐中電灯・水槽など）使用方法をあらかじめ設定しておく。
--------------------	---	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>影あそびを通じて影の色の変化に興味を持ち、積極的に活動に取り組んだ。 セロファンを使って影に色をつけたり、複数の光を組み合わせたりすることで影の色が変わることに気づき、「色を混ぜたら違う影になった！」と驚き、楽しんでいった。 ステンドグラスづくりを通じて光の色の変化に興味を持ち、セロファンの組み合わせを工夫しながら製作を進めた。 「赤と青を重ねたら紫になった！」と気づく姿が見られ、光を当てることでさらに変化することに驚いていた。 また、「もっと光を強く当てたらどうなるかな？」と試行錯誤する姿も見られた。</p>	<p>【子どもの姿・声】 ・「影って黒じゃないの？」、「青と赤の光を当てたら何色になるのかな？」、「影の色が変わった！不思議！」など、それぞれの気づきを発言する姿があった。 ・「光を当てると、色が変わって見える！」、「この形にしたら、もっときれいになるかな？」、「重ねると色が変わる！面白い！」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。</p> <p>【保育者との関わり】 ・「光の色を変えたら影の色も変わるかな？」「どうして影がこんな色になったの？」と問いかけながら、子どもたちの考えを引き出した。また、光の三原色について簡単に説明し、「この色の組み合わせでどうなるかな？」と問いかけ、興味を深めていった。 ・「どんな形や色の組み合わせがきれいかな？」「光の当て方を変えたらどうなるかな？」と問いかけ、子どもたちが考える機会を増やした。また、色の変化を実</p>

験しながら、子どもたちが自分の考えを深められるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none">・子どもたちは、影の色が変わることに強い関心を持ち、何度も試して探究を進めていた。・光の色を混ぜることで影が変わることに驚き、「ほかの色でもやってみたい！」と自主的に活動を広げようとしていた。・影の変化を通じて、光の性質を直感的に理解する姿が見られ、次月の活動への良い導入となった。・室内と室外で色の見え方が変わることに関心が出たり、次は何色にするかとわくわくした表情で探究していた。・「もっとやってみたい！」という声が多く、次の活動につながる探究心が育まれていた。	

プログラムの目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えを持ち、試行錯誤する 2. 正解のない問いに対して、自分なりの答えを見つける 3. 主体的に学びを深めることを楽しむ
----------	--

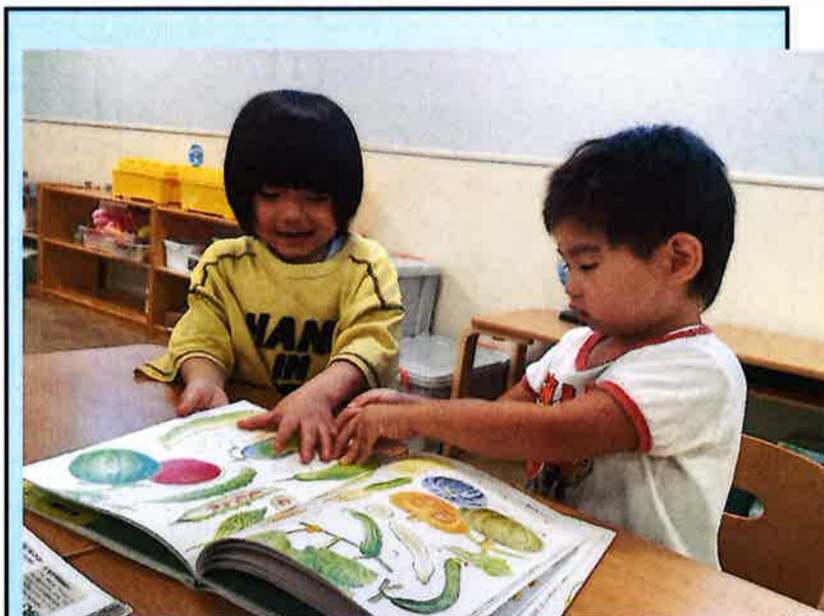
活動テーマ	たべもの ～野菜～
-------	-----------

活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 野菜ってなに？ 2 野菜はどこにできるの？ 3 食べているのはどこ？ 4 野菜カードをつくろう
------	--

活動の様子	<p>野菜をテーマに活動を行いました。子ども達の中で野菜はとても身近に感じるものであり、野菜の種類を聞くとたくさんの野菜が出てきました。まず野菜の観察から行いましたが、虫眼鏡を渡すと虫眼鏡に興味津々な様子でした。その虫眼鏡を使って観察をしていくと、線が見えたりといつもは気にしていなかった気づきがたくさん出てくるようでした。その後、土の中でできているものなのか、どこが食べられるのかを学んでいくと、子ども達の中で野菜に対する見方が変わったように感じました。</p>
-------	--



野菜は虫眼鏡で見るとどうなっているのか、よく観察しています。



土の中でできるもの、外でできるものを図鑑を使って探していきました



野菜カードをつかって、食べられるところはどこかを考えていき、仕分けていきました。



好きな野菜を選び、1人1枚ずつ野菜カードをつくっていきました。



実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 にじ 組	9 月 25 日 (木)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ~食べる~ 食べ物の旅マップを作ろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
自分たちのもとへ届く食べ物は育てる人、加工する人、運ぶ人などさまざまな人がいてからこそであることに気づき、さらに他の食べ物について考えてみようとする姿が見られる		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
9:30~9:40	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・調べたり、興味関心を深めたりできるように、図鑑やタブレットを活用できる環境を用意する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【準備物】 ・食べ物の絵本 ・前回までの活動の記録 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・画用紙 ・色鉛筆 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
9:40~9:50	・食べ物についての絵本を読む。	
9:50~10:15	・調べたり、話し合ってきた食べ物の旅をマップにする提案をする。 マップ作りをするために2チーム(野菜チーム、お肉チーム)に分かれる 各チームでマップ作りを行う	
10:15~10:20	各チームで描いた食べ物マップを発表して紹介する	
		【事前準備】 ・前回の活動の記録をホワイトボードなどに貼り出し、振り返りやすい環境を整える。 ・制作しやすいよう、作業スペースを設定する。

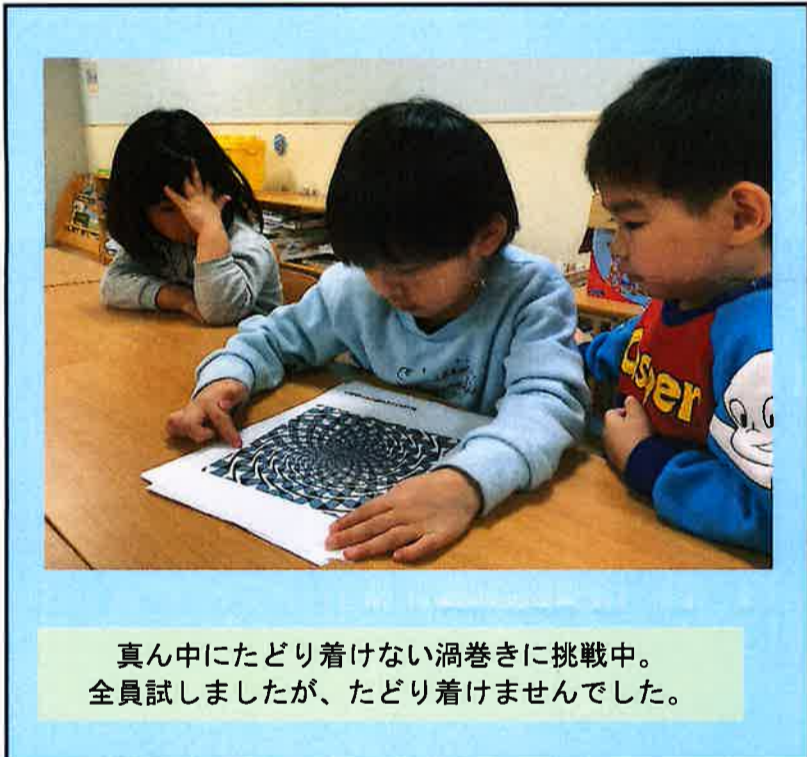
● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・前回の活動を振り返るとともに、絵本を用いて振り返ることでより興味を持って取り組むことができるきっかけを作っていた。</p> <p>・2グループに分かれてそれぞれの食べ物の食べ物マップを描いていった。(野菜、お肉、お魚)</p> <p>・2グループへの分かれ方は子どもたちがやりたいものを選択した。</p> <p>・それぞれのチームで描いたことを発表してもらい、共有する中で探究を深められるようにしていった。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・前回の活動で調べたことを思い出し、「畑で農家さんがとって、トラックで運ぶんだよ」「スーパーの人が野菜を買いじゃなかった？」などと食べ物の流れを考えて友だちに相談する姿が見られた。</p> <p>・友だちの発表を聞き、振り返りの中でたくさんの人の関わりがあることについて気づいている様子が見られた</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・「最初はどこにあるのかな?」「このあとどうなるんだっただかな?」と問いかけながら、前回の気づきを思い出すことができるように促していった。</p> <p>・チーム内で考えたり、進めていけるようにしていけるように「どう思う?」など問いかけ、全員の意見の交流ができるように進めていった。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・少人数によって話し合いが深まるようにチームに分かれて作るようにしたが、1人の意見で作ったり、友だちの描いたものをマイナスな発言をする姿が見られた。友だちと協力して行う経験を積んでいながら友だちを認めあっていたように</p> <p>・食べ物というものが身近なこともあり、興味を持って取り組む姿が見られた。自分たちが食べているものがどこから来るのか、誰が関わっているのかについて興味をもって考えたり、絵本を見たり積極的であった。</p>	<p>今まで取り組んだことをグループで話し合いながら発表までということですが、全員が何かしら発表することが出来るとさらに良いかと思います。今回自分達で作り上げたものを飾るなりして日頃から見えるようにしておくの良いと思います。</p>

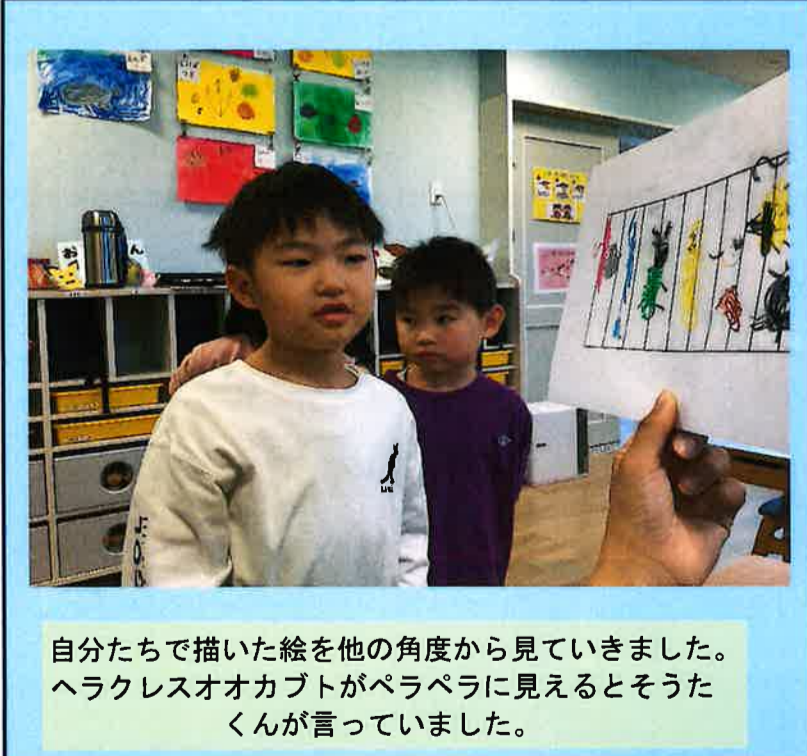
<p>プログラムの目的</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えを持ち、試行錯誤する 2. 正解のない問いに対して、自分なりの答えを見つける 3. 主体的に学びを深めることを楽しむ
<p>活動テーマ</p>	<p>アート ～ふしぎな絵～</p>
<p>活動内容</p>	<p>①なんの絵に見える？ ②目の錯覚 向きで変わる絵 ④不思議な箱 ③見る</p>
<p>活動の様子</p>	<p>今回は錯覚について学んでいきました。トリックアートを見て「なにこれ!？」と最初から興味津々だった子ども達。様々な視点から絵を見ていくことで子どもたちの感性を磨いていきました。ずっと見ていると何が見えてくるか、角度を変えると違う物が見えてくるなど子どもたちの中でたくさんの意見が出てきたこともあり、話し合ったりどう思ったかなどを子どもたち同士で聞き合っ、進めていく姿が見られました。「不思議だな」という声やずっと見ていたり頭を使ったことで疲れてしまう子もいましたが、自分たちなりに探求して学びを深めていっていました。</p>



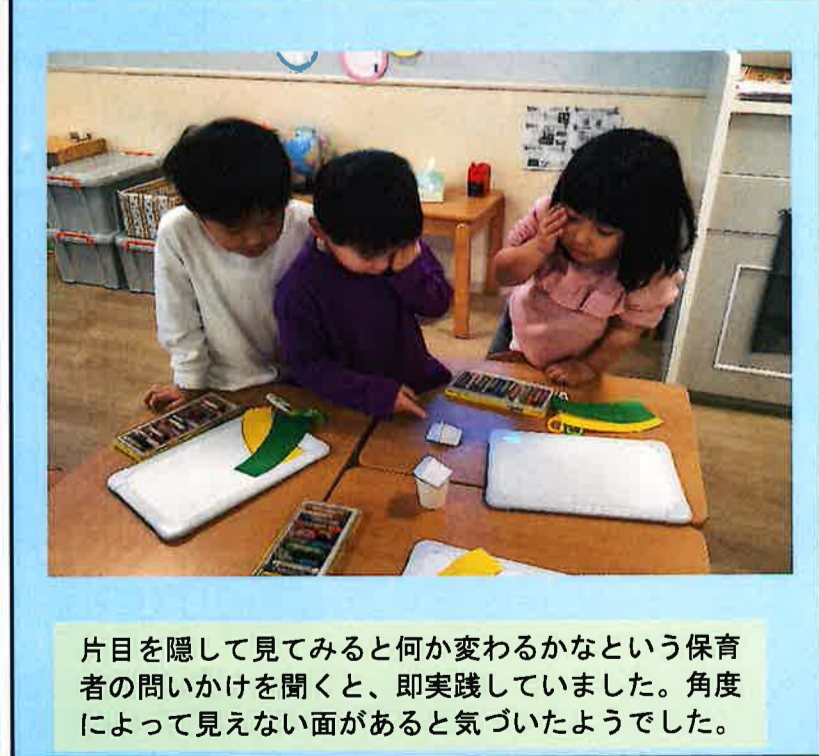
真ん中にたどり着けない渦巻きに挑戦中。全員試しましたが、たどり着けませんでした。



「長さを比べてみようよ!」と子どもたちの中で提案が出て、子どもたち同士のもので比べていました。



自分たちで描いた絵を他の角度から見ていきました。ヘラクレスオオカブトがペラペラに見えるとそうたくんが言っていました。



片目を隠して見てみると何か変わるかなという保育者の問いかけを聞くと、即実践していました。角度によって見えない面があると気づいたようでした。



実施クラス			実施日	実施保育者名
5	歳児	にじ 組	10 月 16 日 (木)	齋藤

● 実施計画

活動テーマ	
アート～色の不思議～ 色の世界をのぞいてみよう	
活動テーマに関する 日頃の興味関心について	
色の違いについて気づいたり、様々な色の変化について「青色になった」「ちょっと紫みたい」などと気づきを言葉にして伝えようとする姿がある	
活動スケジュール	環境設定 ・ 準備物
時間	内容
10:50～10:55	前回の振り返りをする
	暖色、寒色以外にも中性色についても考えてみる
10:55～11:10	セロファンを重ねて何色に見えるかどうか考えてみる
	セロファンを使って色眼鏡を作ってみようという提案し、作り方を見せながら説明をする
	好きな色(赤、青、黄色)から好きな色を選んで色眼鏡を作る
11:10～11:35	色眼鏡を使って部屋の中を探索する
	部屋の暗さを変えて、見え方の変化を考えてみる
	園内を探索して見え方の違い、色の違いを見える
【環境設定】	
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが自由に発言したことを記録に残して見返すことができるようにする 正解を最初から求めるのではなく、予想を立ててみることから始め、考えることの大切さを感じられるようにする 	
【準備物】	
<ul style="list-style-type: none"> カラーセロファン トイレットペーパーの芯 iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ホワイトボード ホワイトボードマーカー 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・寒色、暖色、中性色について表を見ながら前回の話も元に振り返っていった</p> <p>・三原色のセロファンを使って色の混ざり合いを実際に見てみる</p> <p>・三原色のセロファンとトイレットペーパーの芯を使って色眼鏡を作り、部屋の中や園内を探索していく中で色の変化や見え方の違いについて考えた</p> <p>・部屋へ戻って、色眼鏡を使ったことでの見え方の違いや気づいたことを友だちと一緒に共有できる時間を作って意見交流を行なった</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・寒色、暖色について話すと、「あったかい色」「冷たい色」と表現する児もいた。実際にメガネを作り、部屋を探索することで、同系色は濃く見える、反対色ははっきり見えるなどの発見があった。また、2つの色眼鏡で見てみようとして友だちの物を貸し借りしたり、白や黒などのどちらとも言えない色を色眼鏡で見てみると、赤がピンクになった、や黒は見たことない色などの驚きながら探索できていた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>色眼鏡を通して物体を見ることで、違う色に見えることに気づき、共有しようとしていたり、違う見方をしてみたいと子供の方から提案があったので、一緒に見ることで、不思議さや面白さを共有しながら探索活動をする事ができた。最後の発表でも、少し見当違いな発言でも受け止め認めることで、様々な発見を積極的に発表する事ができていた。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>探索活動を通して、自分の気づいたことや、不思議だと思ったことは、友達や保育者に共有することで、一緒に考える、他の意見も受け入れるという事が少しずつできるようになってきていると感じた。色のイメージや、見え方で様々な意見があることに気づけるように全ての意見を肯定することで、友達にも様々な意見があることに気づけるように促した。</p>	<p>前月に繋がる内容と思いますが、色の変化を楽しむことが出来ているのかと思います。今回はカラーセロファンということで前回とはまた違った反応があったようなのでまた機会があれば取り組んでみても良いかと思います。</p>

プログラムの目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の考えを持ち、試行錯誤する 2. 正解のない問いに対して、自分なりの答えを見つける 3. 主体的に学びを深めることを楽しむ
----------	--

活動テーマ	おかね ～おかねの使い方を考えよう～
-------	--------------------

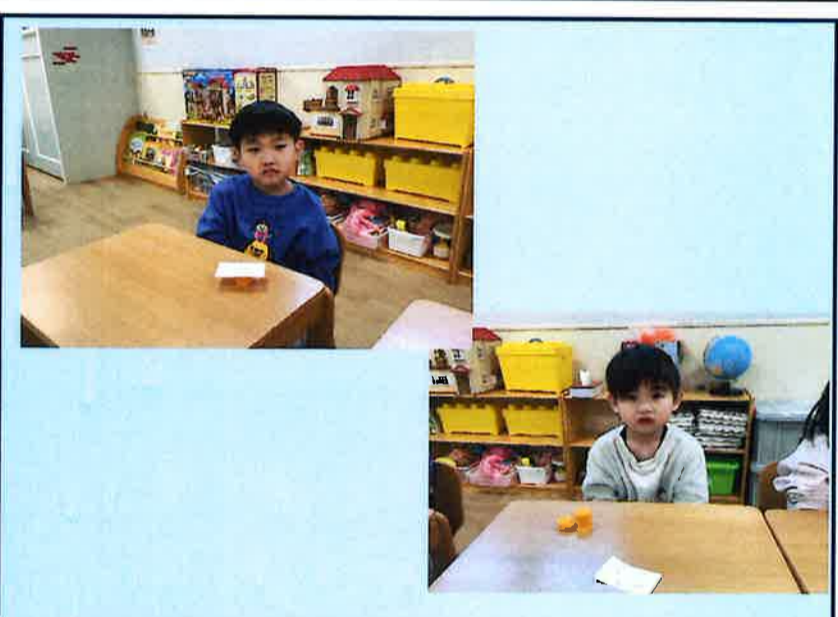
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 おしごとをしてみよう 2 ためるってどういうこと？ 3 ねだんをくらべてみよう 4 おしごとをかんがえてみよう
------	--

活動の様子	<p>先月に引き続き今月もお金をテーマに活動を行いました。実際に仕事をしてお金を稼ぐということはどういうことなのかを学んでいく機会を得られたのではないと感じました。仕事としては保育者の手伝いや玩具の片付け、ごみ集めなど仕事というよりはお手伝いのような感覚のものが多かったようですが、仕事が終わった報酬としてチップをもらおうと達成感を感じているようでした。お金をもらった後、商品と交換するか貯めるか考えていってもらおうと、4人全員が貯める選択をとり、とても驚きました。交換できなかった商品に向けて今後も仕事をしていくようなので、早めに貯められるよう引き続き仕事を頑張ってもらいたいと思います。</p>
-------	---



写

保育園内でお仕事を探して働いていきました。事務所の清掃や玩具の消毒、保育園内全部のごみ集めなどの仕事をしていきました。



働いた分、給料をもらいました。使い道は全員貯めるという道を選んでいました。



コーラ、カルピス、オレンジジュース、三ツ矢サイダーの中で何を買いたいか問うと、カルピス2名、オレンジ1名、サイダー1名でした。



にじ組のお店を考えていきました。名前や売りたいもの、必要なものを考えていきました。

活動テーマ

おかねで何が出来のかな

活動テーマに関する 日頃の興味関心について

前回、保育園内でお仕事を探したところ、保育者のお手伝いや玩具の消毒、ゴミ集めなどをしたいとのことだったので、これらの仕事をしていった。やってみたら楽しかったようで、次は何があるかなど率先して探す様子が見られた。その延長でお店屋さんごっこを行う。

活動スケジュール

3月4日 お店の内容決め
3月11日～13日 スーパーで必要なものの準備
3月18日 ほしぐみと一緒にお店屋さんごっこ、お金の使い道

環境設定・準備物

活動①

活動②

話し合いに必要なホワイトボード。レジやバーコードリーダーを作るために段ボール、画用紙、油性ペン。玩具用の硬化や紙幣。

活動③

お店屋さんごっこの際には4歳児ほしぐみにも声掛けを行い、お客さん役として参加。

活動④

活動内容

活動①

活動②

まず、お店屋さんをするにあたり1人が近隣になる業務スーパーを思いつき、そこから他の子たちも一緒に業務スーパーにあるものを考えていた。そこで色々な食べ物や飲み物が必要だと感じ、その後はお店屋さんと言えばレジやバーコードリーダーが大事だということになり大きさや形なども自分たちで考えていた。4歳児ほしぐみにお客さん役をやって頂き「〇〇はいくらです」など子ども同士でやり取りを楽しんでいる様子が見られる。最後に受け取ったお金はどうするのかを考えた際には貯金をすることで話がまとまった。

活動③

活動④

活動中の子どもの姿・声、保育者との関わり

活動①

活動② 普段の散歩や保護者との生活の中で近隣にある業務スーパーをイメージすることが出来たのでその先の内容決めも比較的スムーズに進んだように感じる。スーパーにあるものということでイメージがしやすかったようで「〇〇があるね」「〇〇もいいね」などの話が見られ金額の設定まで会話が弾みながらスムーズに決まってい

活動③ 途中でこちらから「お買い物で一番大事なものは？」と聞くと「レジ！」と嬉しそうに答えており、普段見ているものをイメージして大きさなども話し合いをしながら作っている。実際にほしぐみをお客さんとして参加していただきお店屋さんとして行うことを楽しみながらも硬貨が何枚必要なのかも考えながら保育者と一緒にお客さんにお釣りを渡したりして楽しんでいる。最後に受け取ったお金をどうするのかを考えた際にはすぐに「とっといておく」ということになりスムーズに貯金することになった。

活動④

振り返りで得た保育者の気付き

普段の生活をすぐにイメージすることが出来たので全体的にスムーズに進み、話し合いもじっくりと行うことが出来ている。

今年度を通して話し合うことに対して保育者が介入することで建設的な話し合いを行うことが出来ているので卒園式までの短い間ではあるが、学校についてなどの話し合いも行うことが出来ればと思う。